

認定看護師の活動紹介

皮膚・排泄ケア認定看護師 北島直美

私は、皮膚・排泄ケア認定看護師として、職員と一緒に利用者の褥瘡予防に努めています。

利用者の皮膚は繊細であり、身体拘縮や筋緊張の状態から同一体位や同一部位の圧迫が原因で褥瘡が発生しやすい状態です。職員は、利用者の身体特徴をアセスメントし、個別に工夫を取り入れながら、利用者の状態に合わせた方法で予防ケアを実践しています。

長期利用者は、センターが生活の場であり、日中活動に長時間参加することもあります。自分で除圧できないため、リハビリテーション科とも協力して適切な除圧具を選択に努めています。

私は2024年度に特定行為研修を受講し、医師の指導の下、カニューレ交換や胃瘻交換の特定行為実践を行っています。今はまだ、自部署を中心に特定行為実践をおこなっていますが、利用者理解を深め、他部署利用者の実践へも取り組み、医師からのタスクシフト推進、利用者を待たせることなく速やかに処置を行いたいと思います。

地域貢献として、院内認定看護師連絡会で出張勉強会を企画し、それぞれの専門分野が他施設訪問を行い、必要な知識の普及に努めています。また、YouTubeでの配信も行っていますので、時間を見つけてご覧ください。

院内の利用者は、褥瘡予防以外でも、蜂窩織炎や失禁関連皮膚炎など、接触性皮膚炎の予防も必要です。職員と一緒に、利用者個別性に合わせたケアを工夫してまいります。



褥瘡回診風景

〒183-8553
東京都府中市武蔵台2-9-2
東京都立府中療育センター
電話 042(323)5115
FAX 042(322)6207

＊ ＊ ＊ ホームページもご覧ください ＊ ＊ ＊

<http://www.fukushi.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>

ひだまり

都立府中療育センター新聞 第572号 発行日 令和7年8月31日

リハビリテーション科紹介

リハビリテーション科主任技術員 柴田広徳

移転前に「訓練科」と呼ばれていた旧名称を耳にする機会も、めっきり少なくなりました。現在は「リハビリテーション科」として運営されていますが、名称が長いため、以下では「リハビリ（科）」と略してご説明いたします。

リハビリ科は、院内1階のほぼ中央に位置しており、どの場所からも比較的アクセスしやすい立地です。ただし、訓練室は16部屋あり外来部門と入所部門でレイアウトが分かれているため、目的の部屋が分からず迷われる方もいらっしゃるようです。病棟側の廊下壁面に案内図を掲示しておりますので、ぜひご参照ください。

スタッフ体制についてご紹介します。科長は副院長が兼任しており令和7年度からは心理職が生活支援科に所属することとなりました。現在、理学療法（PT）、作業療法（OT）、言語聴覚療法（ST）の3職種で構成されており、常勤職員22名、会計年度任用職員5名の計27名が在籍しています。

移転および旧2施設の統合から5年が経過し、現在は入所部門が長期・短期入所の利用者を、外来部門が通園・通所・外来の利用者を担当しています。対象は施設から地域、乳児から成人までと多岐にわたり、PT・OT・STの各部門がそれぞれの専門性を活かして支援を行っています。

リハビリの形態は、スタッフと利用者が1対1で行う個別訓練が中心であり、これは現在も変わっていません。業務範囲については、合併当初と比べて特に外来部門において、車椅子などの補装具作製の対象年齢の拡大や、神経発達症群などへの対応など、対象疾患の広がりが見られます。一方で、入所利用者においては加齢に伴う身体状況の変化や機能低下が顕在化しており、訓練室でのリハビリだけでなく、病棟での生活場面における支援も増加しています。

こうした多様なニーズに応えるため、スタッフの働き方も含めて日々試行錯誤を重ねております。より良いサービス提供を目指し、スタッフの自己研鑽はもちろんのこと、関係者の皆様のお知恵とご協力を賜れますと幸いです。

いつでも、どのリハビリ室でも、利用者とスタッフが真剣に、そして楽しく取り組んでいる様子をご覧ください。ぜひ一度、見学にいらしてください。





3A・3C病棟 合同夏祭り

3A病棟 福祉職

8月20日(水) 3A・3C病棟にて合同夏祭りを行いました。今回は「絵本の世界」というテーマで色々な絵本を使いゲームや展示を制作しました。

右側にある写真は、「桃太郎」をイメージして作ったゲームです。下側にある写真は「ノラネコぐんだん」という絵本から顔はめパネルを制作しました。

利用者の方々は、桃太郎のゲームを行うと真剣な表情をされる方や嬉しそうに微笑まれる方もおり楽しく行っていくことが出来ました。

今回の夏祭りでは、全8冊程度ではありますが、絵本投票をやらせていただきました。センター祭では投票結果を掲示できればと考えておりますので、楽しみにしていただければと思います。



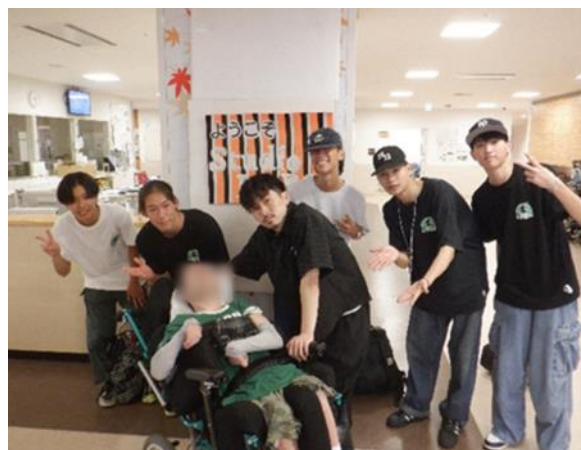
2C病棟 お楽しみ会

2C病棟 福祉職

7月23日(水)の「お楽しみ会」にて、2C入居利用者様の弟さんと妹さんがインストラクターを務める、ダンス教室「Studio LABO」の方々がパフォーマンスを披露してくださいました。初めに、女性たちによるK-POPナンバーに合わせたダンス、その次に若い男性たちによる、迫力のあるアクロバティックなダンスを鑑賞しました。

その後ダンスの振りをレクチャーしてもらい、一緒に楽しくおどりました。

最後は、プロのダンスチームで活躍されている、弟さんの息をのむような圧巻のソロパフォーマンスで締めくくってくださいました。皆さんダンスを集中して鑑賞され、自ら音楽に合わせて身体を動かす方もいたり、ダンスの楽しさを感じることでできた素晴らしい会でした。



チーム医療経管経腸栄養ワーキンググループ紹介

事務局(栄養科) 宮澤誠子

経管・経腸栄養ワーキンググループは、府中療育センター栄養サポートチーム(NST)の下部組織として位置づけられています。委員長は田沼副院長、メンバーは医師、薬剤師、専任リスクマネージャー、各病棟から看護師1名、管理栄養士で構成されています。(全15名)

主な活動内容は、経腸栄養に関連した問題(インシデントアクシデント関連報告等)の情報交換、勉強会、栄養剤試飲会等。「重症心身障害児者のための経腸栄養マニュアル(現在第9版)※」については2年に1回改訂し、日常業務に役立つ内容にブラッシュアップされています。



＜次期採用候補の経腸栄養注入ポンプ各種のデモンストレーション
(講師:臨床工学技士大沢さん)＞
実際に見て、触れて、アラーム音を聞いて、使い勝手を確認しました。



現在、センター利用者の約50%の方が経管栄養食です。その内、胃ろう注入で、昼のみミキサー食注入の方が13%ですが、1日1食だけでも食事を注入することで、腸内環境レベルの改善効果があるようです。また、栄養剤のスタイルも変化し、令和3年度より早朝時の栄養剤は加水調整済バッグタイプを採用、衛生管理及び看護師の負担軽減につながっています。

※電子カルテ:CESSグループウェア⇒ネットフォルダ⇒マニュアルフォルダ⇒チーム医療で閲覧できます

